

日本庭園学会ニュース

The Academic Society of Japanese Garden News

NO. 71
平成24年

案内 平成24年度 関西大会

発行 日本庭園学会(会長 鈴木誠)
〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
東京農業大学 地域環境学部 造園学科
ガーデンデザイン研究室内
TEL(03)-5477-2430(鈴木誠研究室)
<http://www.soc.nii.ac.jp/asjg/>



予告 平成24年度 関西大会・研究発表会

平成24年11月10日 京都府京都市

平成24年度の関西大会の開催スケジュール及びシンポジウムのテーマが決定した。

開催日時は、平成24年11月10日（土）、11日（日）の2日間。1日目は、午前中に研究会、午後からシンポジウムが予定されている。シンポジウムのテーマは、「岡崎・南禅寺界隈の庭一庭を継承する担い手の群像を探る」である。2日目は、京都府京都市左京区の岡崎・南禅寺界隈においてシンポジウムに関連した見学会が行われる。

京都市域の北東部に位置する岡崎・南禅寺界隈は、広大な敷地をもつ近代に造られた庭が数多く存在することで知られている。それらの庭の多くは、近代に活躍した政財界人らを施主とし、七代目小川治兵衛が作庭を行ったことで著名である。岡崎・南禅寺界隈に良質な庭があること自体は、マスメディアなどを通じ一般に知られるようになってきているが、実際にどれだけの数の庭がどのような経緯で存続しているかについては明らかではなかった。

そこで、平成22～23年度にかけ京都市役所が中心となって、同地域の実態調査が行われた。その結果、庭園の所有者は幾度と変わり、一部においては分割や合併、改修などを経ながらも、脈々と継承されている実像が明らかとなった。

今回のシンポジウムでは、前述の調査成果の紹介を通して、庭を継承する担い手の群像を明らかにし、ある特定の地域に群として存在する庭がどのように維持されているのか、その実態を検証する。

会場は、1日目が龍谷大学大宮キャンパス（京都市下京区）、2日目は名勝無隣庵を含む岡崎・南禅寺界隈の庭が予定されている。詳細は、次号の本紙（No.72）で案内する。 ■

大会概要

日時：平成24年11月10日（土）、11日（日）

場所：研究会・シンポジウム / 龍谷大学大宮キャンパス
見学会 / 京都市左京区 岡崎・南禅寺界隈

- 1日目 9:00 研究発表会・シンポジウム受付開始
9:30 開会の挨拶
9:35 研究発表会 開始
12:05 研究発表会 終了
休憩・理事会
13:30 シンポジウム開始
17:00 終了
17:30 懇親会

- 2日目 9:30 見学会受付開始
10:00 開会
12:30 昼食
13:30 再会
16:00 見学会終了



平成24年度全国大会 研究発表の様子

平成 24 年度 日本庭園学会関西大会 研究発表について

平成 24 年度の研究発表会で発表を希望する方は、下記の要領にしたがうこと。

発表時間は、一人あたり 30 分とし、発表 25 分、質疑応答 5 分を予定している(変更する場合もある)。また、発表には PC プロジェクターの使用が可能である。

◆発表申込み、発表要旨提出期限：平成 24 年 10 月 1 日(月)

◆申込み方法

発表者氏名・所属・題名・連絡先を明記し、発表概要(200 字程度)を添付のうえ下記の「発表申込先」まで送付すること。原則的には E メールとするが、郵送もしくは FAX でもかまわない。

◆本文版下原稿の郵送期限：平成 24 年 10 月 12 日(金)

◆執筆要領

全発表者分を研究発表要旨集として印刷し、当日参加者に配布する。原稿はそのまま要旨集の版下とする。そのため、ワープロを使用しての作成すること。分量は、A4 判で 2 ページもしくは 4 ページ、6 ページとする(奇数ページでの原稿は、受け付けないので注意すること)。

1 ページあたりの文字数及びページレイアウトは、学会誌の論文の書式に準じ、横書き 2 段組、1 段あたり 25 字 40 行となっている。なお、書式はホームページからダウンロードが可能となっている。

申し込みと資料提出の締め切り日は厳守のこと。

発表の申込み先・本文版下原稿の提出先

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山 2-116 京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342

発表要旨の提出先 広報担当 今江 秀史 <muk95755@hera.eonet.ne.jp>

※ E-mail が使用できない場合は、上記の発表申込み先に FAX すること。

報告 平成 24 年度全国大会 見学会

平成 24 年 6 月 9 日(土)

今回見学させていただいたのは、近代の名園・椿山荘庭園である。現在は、敷地内にフォーシーズンズホテル椿山荘東京を併設し、結婚式場として周知されている。

庭園に一步足を踏み入ると、そこは 6 月らしい新緑に彩られていた。まずは、集合場所である三重塔「圓通閣」へ向かう。庭園の西側へ進むと、左手にはひょうたん型の大池「幽翠池」、右手には三段にも四段にも連なり水を落とす壮大な滝「聴秋瀑」を眺める。ふと視線を上げると、小高い丘上に三重塔の相輪が見えた。塔までは、両側に樹木の生い茂る小道を登っていく。塔前には、参加者の方々が集合されており、現地説明会が始められた。説明は、フォーシーズンズホテル支配人の諸井宏益氏にして頂いた。

三重塔は、広島県の竹林寺からの移築で、平成 22 年

に移築後初めての大規模改修が行われたものである。山中といった風情の塔西側とは打って変わり、東側に広がるのは、背の低いアカマツが散在する明るい芝生地である。その向こうには、幽翠池とホテルが望める。芝生地を南下すると、「椿山」が広がる。椿山荘周辺は、元来「つばきやま」と呼称され、南北朝時代からツバキが自生する景勝地であった。ここだけではなく、椿山荘には珍しいツバキがあちこちに植栽されている。更に南へ進むと、どっしりと立派な「ご神木」に目を奪われた。樹齢 500 年、樹高 20 メートルにもなるスダジイである。ご神木をぐるりと回り込むと、江戸川公園へと抜ける冠木門がある。そこから幽翠池の方へと下ると、料亭「錦水」を右手に過ぎ、「ほたる沢」が見えてくる。沢は護岸の改修や下草の植栽を新たに行い、ホテルの生育地として整備されている。

またこの庭園は、至る所に石造美術品が配置されているのも見所である。全 30 基にもものぼり、文化的価値のあるものも少なくない。特に、三重塔付近に配置され

た般若寺型の本歌は文化財級の名品である。

見学会の後、椿山荘をはじめとする山縣三名園についてのシンポジウムが行われた。山縣公の庭園は、屈指の高いデザイン性をもちながらも、生涯抱き続けた郷里の自然への懐慕の念が実直に表現されている。庭園は時間の経過と共に、様々な要因で姿を変えるが、作庭者がイメージした庭園元来の在り様を、いかに受け止め、活かしていくのか。美しい庭園を歩きながら、現代に遺された庭園の維持・管理の方向性について深く考えさせられた一日だった。

廣安春華(京都大学大学院)



椿山荘見学会の様子

ごあいさつ 学会長就任にあたって

鈴木誠 (東京農業大学造園科学科教授)



はじめに 学会創立 20 周年を迎えて

学会長を務めさせていただくにあたり、ごあいさつ申し上げます。

学会員の皆さまとのコミュニケーション手段は、この「学会ニュース」が唯一です。少し長くなりますが、新学会長の抱負も含めて述べさせていただきます。

1992年(平成4)6月に正式発足した日本庭園学会は、本年2012年6月をもって20周年を迎えました。その記念すべき節目に学会長に推挙いただきました。

20年の年月。これは前学会長の藤井英二郎先生ともお話ししたのですが、振り返ってみるとあつというまであったように感じます。

さて、20周年を迎えて、目だった行事はないのか(?!), という学会員の声も聞こえてきそうですが、2012年を迎えるにあたり日本庭園学会内外での出来事

をご紹介させていただきつつ、むこう2年間の学会長としての抱負についても触れさせていただきます。

まず、20年を迎える日本庭園学会の抱える課題に対応すべく、「日本庭園学会将来検討委員会」(平成23・24年藤井英二郎委員長、平成24・25年度小野健吉委員長)が設けられ2年間の検討の上、「(仮)日本庭園学会の今後のあり方について」(平成24年6月)という答申が出されました。この全文については、この学会ニュースに掲載していただくと共に、学会ホームページにもその内容を掲示させていただいています。内容をご確認の上、是非ご意見をお寄せいただければ幸いです。そして、この中間答申内容に基づき学会としていくつかの課題解決については、着手させていただこうと思います。

以下はその「今後のあり方」にも関わっての動きです。

「日本庭園学会誌」の公開電子アーカイブ化

2009年(平成21)の総会でご承認いただきました、独立行政法人科学技術振興機構(JST)による、主要学術雑誌の電子アーカイブ化事業(Journal@rchive)への、「日本庭園学会誌」の応募は、平成21年度選定学術雑誌の一つとして無償(JST負担)による電子アーカイブ化が決定しました。その後、ご案内のとおり著作権などの確認作業を実施し、JST側の都合により事業実施がやや遅れたものの、2010年度中に各種作業を完了。2011年

5月、無事 JST 電子アーカイブに「日本庭園学会誌」(第1号~第20号)が掲載されました。

その後、新規発行の「日本庭園学会誌」についても JST の電子ジャーナル事業 J-STAGE への無償登載が認められ、2012年2月よりその運用を開始、学会誌第21号以降が順次電子アーカイブ化されています。今後、「日本庭園学会誌」は冊子として発行された後、6か月後には電子アーカイブ化されて全世界の研究者へ情報提供されます。

この事業に関わり3年間にわたりご苦労いただいた、企画委員会、総務委員会、編集委員会の皆さまには改めて御礼を申し上げます。

平成24年度学会賞受賞業績と地方の庭園研究

6月の総会において2名の学会員が学会賞を受賞されました。おめでとうございます。

皆さまには、是非その授賞業績にご注目いただきたいと思ひます。

小口基實氏「信州の庭など地方の庭園研究」

西桂氏「兵庫の庭など地方の庭園研究」

20周年を迎える日本庭園学会総会において、日本庭園の地域性に着目した研究業績が学会賞を受賞した、ということは単に偶然ではないように思ひます。学会員の皆さまがそれぞれの地域において、研究活動を実践し、その成果が日本庭園学会の活動の源ともなっていることを考えると、学会創立20周年という時期に相応しい受賞業績である、といえましょう。今後、地方の庭園研究は本学会の進めるべき方向の一つと考えております。

海外学術団体との連絡・連携

これまで、海外の学術団体への「日本庭園学会誌」の寄贈や、海外からの研究者来日に合わせた研究会開催などを学会事業として実施してきました。

日本庭園学会が20周年を迎えた今年2012年10月、北米日本庭園協会(North American Japanese Garden Association)が発足しての第1回目の年次大会が開催されます。これまで、日本における準備会(2010年3月)ほか、北米各地で10回の地域会議を経ての全国大会となりますが、北米に限らずヨーロッパ、日本からの参加者もあり国際的な会議となるようです。この会議には、藤井前学会長の招待講演も予定され、学会員の山田拓広さんや、私たちの研究グループも成果発表いたします。

そこで、この機会に学会の事業と目的を定めた定款第2章第5条第4項「海外学術諸団体との連絡および連携」を、正式なかたちで実現できないか検討させていただきたいと思ひております。

学際性をにらんだ研究会と学会員の確保

「日本庭園学会誌」が電子アーカイブ化されたこと、学会ホームページに「学会ニュース」がアーカイブ化されたこともあり、学会の研究・活動内容の紹介が容易にできるようになりました。20年間の実績も強調できる内容です。また、別途ですが日本庭園に関する研究情報一般もインターネットを通じた研究課題・研究者検索にて比較的容易にできるようになりました。

そこで、日本庭園学に関わる学際的な研究会、講演会、見学会などの企画とその案内、日本庭園に関わる研究実績をもつ研究者の発掘と学会へのお誘いなども順次実施させていただきたいと思ひます。

そのためには、何にも増して研究会、見学会などの充実が重要です。会員の皆さま同士、またこれから会員になっていただく皆さまとの出会いの場であり、若い会員にとっても実際に研究交流できる機会でもあります。この充実に努めたいと思ひます。

平成25年度全国大会(名古屋)の開催について

20年来全国大会は東京周辺で春に開催し、秋に関西大会を実施してきました。地方の庭園研究を進めることも考え、来年度の全国大会は名古屋での開催を企画していただいています。例年の通りの6月第2土曜日・日曜日ですと、2013年6月8日(土)、9日(日)が開催日予定日です。来年のカレンダーにご予定を早めに入れていただければ幸いです。また、来年の全国大会では研究会、研究シンポジウムの活性化、学際性の強化なども視野に入れて大会企画が進行しとおります。多くの皆さまのご参加と研究発表の申込みをお待ち申し上げます。

以上、理事の皆さま、各委員会の皆さまと共に学会運営を円滑に、そしてより活発で充実したものとなるよう努力したいと思ひております。

最後になりましたが、学会員の皆さまの益々のご活躍を祈念し、また、皆さまの学会活動への積極的な参加をお願い申し上げて、学会長就任のごあいさつとさせていただきます。 ■

学会事務局の連絡先の変更について

新体制への移行に伴って、日本庭園学会の事務局が下記に変更となりましたのでお知らせします。

〒156-8502
 東京都世田谷区桜丘1-1-1
 東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科
 ガーデンデザイン研究室内
 電話 03-5477-2430(鈴木誠研究室)
 E-mail: teiengakkai@gmail.com (変更なし)
 ※事務局担当は毎週木曜日出勤

会費納入のお願い

平成24年度の会費納入のお願いを全会員に送付しております。納入額をご確認のうえ、納入のほどよろしくお願ひします。また、過年度滞納の方は併せて納入頂きますようお願いいたします。

■学会ニュースへの投稿や、本誌「学会ニュース」やホームページ作成に興味があるという方は、下記宛に郵送またはFAXにてご連絡頂きますよう、よろしく願ひします。

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
 日本庭園学会 広報委員会「学会ニュース」係
 FAX(075)791-9342

表紙の写真

【京都市指定名勝 白河院庭園】
 平成24年度関西大会での見学が予定されている。7代目小川治兵衛が手がけた、元は個人邸の庭。

編集後記

広報委員は、平成24年度より新体制が始動することになりました。前委員長である仲隆裕・現関西支部長が進めてこられた方針を引き継ぎ、会員の皆様にとって有意義な学会ニュースとホームページになるよう精進して参りますので、何とぞよろしくお願ひします。

特にホームページについては、内容の更新が捗っておらず日々の行事の案内だけとなっており、反省しております。近年、全国・関西大会並びに見学会や研究会など、学会活動が活発になっているにも拘らず、活動内容がホームページで周知されていないことは、学究の向上を目指す本会にとって決して望ましいことではありません。

そこで、改めて本会の趣旨を踏まえ、ホームページの構造そのものを見直していこうと考えております。そのためには、皆様のご意見を賜る必要がありますので、ご協力のほどよろしくお願ひ致します。

学会ニュースにつきましては、ホームページに掲載されるようになり、数多くの方々に目を通して頂く機会が増えました。しかしながら、学会ニュースとホームページの内容がWeb内と学会ニュースのPDFデータとに分かれているため、会員が情報を円滑に得られる状況ではありません。そこで、できる限り過去の学会ニュースの情報をWeb上でご覧になられるようにしていきたいと考えております。

学会ニュースとホームページの内容の充実には、会員の皆様の投稿を欠かすことができません。これからは、皆様へ積極的に原稿の執筆依頼をして参りますので、その際はご協力、ご支援をして下さいますよう宜しくお願ひ申し上げます。

編集長/今江秀史 編集・構成/加藤友規
 協力/廣安春華 北森さやか(植彌加藤造園)

日本庭園学会広報委員会

〒606-8271 京都市左京区北白川瓜生山2-116
 京都造形芸術大学日本庭園研究センター気付
 日本庭園学会関西支部事務局 FAX(075)791-9342